

NEWS!

Vol.40-4

No.202

令和3年秋号

編集・発行

髙松 松浦機械製作所

北関東営業所 及び 東京フォーラムセンター移転のご案内

北関東営業所はこの度、業容拡大により下記の住所へ移転することとなりました。

また、LUMEX 販売拠点の東京フォーラムセンターを統合し、国内 MC 販売、LUMEX 販売の拠点「関東営業所」として新たにスタート致します。これも、皆様のご支援ご協力の賜物と心より感謝する次第です。

これからも皆様方のご期待にお応えできますよう、更に営業活動に専念する所存です。

今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



関東営業所

〒330-0043 埼玉県さいたま市浦和区大東1-20-27
TEL: 048-633-9500 FAX: 048-633-9550

アクセス 電車：JR京浜東北線 北浦和駅下車→北浦和駅(バス)より皇山道(バス)降車、徒歩1分
車：与野JCTより、首都高速埼玉新都心線経由で17分

関東営業所長からの ご挨拶

営業本部 国内MC販売
関東営業所長 マネージャー

五十嵐 公俊



この関東営業所を活用して皆様がワクワクする「自動化提案」を行っていきます。「5軸」「コト売り」で世界を変えます! 関東営業所ではSNSで情報発信をしています。ぜひ、フォローをお願いします。



▲Twitter



▲LINE

日本のへソ 福井 No.200



福井は日本のドマン中「日本のへソ福井」第200回目は「産業のまち福井」の話です。福井には世界や国内のシェアNo.1あるいは上位の工業製品を有する企業やオンリーワン技術を持つ企業が多く存在しています。日常生活の様々な場面において「実はmade in 福井」という技術・製品が多くあります。中でも有名なものは眼鏡です。眼鏡に使われるフレームや高屈折偏光レンズ、高屈折率プラスチックレンズなど主要構成パーツの国内シェアは福井県が国内トップ(国内シェア96%以上)を誇ります。全国のケンタッキー・フライド・チキン店舗に飾られているカー

ネルサンダース像にかけられている眼鏡も実は全て福井県産の眼鏡です。

その他、自動車産業では自動車内装材において世界シェア1位、バイザーなどに貼られているコーションラベルやカーエンブレムにおいて国内シェア1位、家電産業ではスマートフォンに使用される積層セラミックコンデンサにおいて世界シェア1位、街並みではカーブミラーや警察・消防署の紋章において国内シェア1位など、福井の技術が一般的にはあまり知られずに活躍しています。

当社では、世界に向けて宇宙・航空機産業、半導体産業、モータースポーツ産業といった高い技術を要する産業に向けて機械を提供しています。マツウラも福井から世界中の産業にお役立て頂ける機械を提供できるよう、こだわったモノづくりを続けてまいります。

ユーザー を訪ねて

No.187

木下精密工業株式会社： 24時間稼働のマシニングセンタ

今回のユーザーを訪ねては、名古屋第二環状自動車道の楠ICから車で3分の距離にある木下精密工業株式会社です。取材には木下朋美代表取締役社長と製造部の木下達也部長にご対応頂きました。同社は世界40カ国以上に製品を展開する工業用マシン部品メーカーです。「オートボビンチェンジャー」をはじめとするマシンの省力化装置では、グローバルでほぼ100%という驚異的な市場占有率を誇ります。木下社長は大手マシンメーカーグループに勤務された後、同社に入社。同社では25年間経理や財務、労務に携わり、令和2年7月に3代目の社長に就任されました。木下社長のいとこにあたる木下部長はマツウラでエンジニアとして勤務した経歴があり、当時に培った知識は同社に設備されているマシニングセンタのオペレーションに活かされています。



▲企業外観

工業用マシンの個人営業から部品製造へ

同社の歴史は昭和23年、木下社長の祖父である木下秀治氏が「木下マシン工業」として創業したところから始まります。創業当時は工業用マシンの個人営業を行っていました。航空機のエンジニアとしてのキャリアを持つ木下秀治氏は徐々に製造分野にも進出、昭和40年からは本格的な工業用マシン部品の製造に乗り出します。

以降、同社では製造事業を堅調に拡大します。昭和50年には生産能力向上のため、創業地である名古屋市北区川中町から、現在の丸新町に本社を移転します。取り扱う部品の多様化に対応すべく昭和55年には第2工場も新設しました。

マシン業界の変革と“第2の創業期”

「1990年代は工業用マシン業界における転換期で、円高の影響によりマシンメーカー各社は製造の中心を国内から海外に移しました。それに伴い当社でも国内の需要が減少し、海外生産の是非についても検討を重ねました。しかし、今後も競争が激化するであろう海外での部品

生産においては、当社の独自性を見出す事は難しいと考えました。日本国内に腰を据え、日本でしかできない、付加価値の高いモノづくりに取り組む方向に舵を切りました」と当時を振り返る木下社長。従来の量産体制から多品種少量・変種変量生産へシフトしていくため、マシニングセンタの設備増強を目的とした第3工場を平成2年に新設しました。また、航空機部品や一般産業機器など、工業用マシン部品以外の分野にも積極的に進出したこの時期を、同社では「第2の創業期」と位置付けています。

ファーストワン・オンリーワンの技術を誇る縫製の省力化装置

国内に軸足を置くことに決めた90年代以降、同社では独自性の高い製品を立て続けに世に送り出します。ボビン交換を自動化する「オートボビンチェンジャー」、下糸の残量を自動的に検知する「下糸検出装置」、縫い目の目飛びを検知する「目飛び検出装置」などは同社が世界に先駆けて開発したファーストワン・オンリーワンの製品です。その高い技術力が評価され「発明大賞」や「ものづくり日本大賞」など数々の賞を受賞。また木下社長の父である木下治彦代表取締役会長は、これらの製品の開発に尽力した功績から、平成30年秋の叙勲において旭日単光章を受章しました。令和2年7月には同社の創業以来初の女性社長である、現任の木下社長が就任されました。コロナ禍の閉塞感を社員が一丸となって打開するため、社内の雰囲気を一変する意味での世代交代でもありました。



▲木下朋美 代表取締役社長

“目に見えない精度”を叶えるマシニングセンタ

同社が設備した初のマツウラ製品は汎用フライスの**VC-1800**です。昭和45年頃に設備された機械ですが、50年近く経過した今も現役で稼働しています。その後、多品種少量生産への対応を強化する為、昭和55年に立形マシニングセンタ**MC-500V1**を設備しました。「工業用マシンの部品製造には高い精度が要求されます。特に布に触れる部品は非常にデリケートなため、当社では定量化できない“目に見えない感覚的な精度”も重視します。高精度な点とコンパクトなサイズ感が当社のニーズと合

で働きやすい職場をつくる



▲設備した機械を記録したアルバム

致したため**MC-500V1**の設備に至りました」と木下社長は振り返ります。木下部長も「マツウラに対する当時の私のイメージは“高精度・長寿命”。剛性もしっかりあり、寸法が出ないなど精度に関するトラブルも起こしたことはありません」とマツウラの製品を評価します。「当時からお世話になっているマツウラの営業担当やサービスマンの対応も良く、加工の課題点を相談すると答えに導いてくれることもあります。そのため当社ではマツウラ以外によそ見せず、永くお世話になっています」と木下社長。その言葉どおり同社では平成30年までに立形、横形合わせて累計25台のマツウラ製マシニングセンタを設備しています。特に平成28年以降は**V.Plus-550**や、多面パレットを搭載し24時間稼働に対応した**H.Plus-300 PC5**、**H.Plus-300 PC11**といったマシニングセンタを順次導入し、残業時間を2/3に削減しました。令和3年末には5軸制御マシニングセンタの最新モデルである**MX-420 PC10**の導入も控えています。



▲マシニングセンタを集約した第3工場

新規分野の開拓と女性が活躍できる職場づくり

「モノづくりにおいて多品種少量・変種変量生産への対応は、日本的な付加価値の創造に繋がると考えています。今後、当社では主力であるマシン部品以外の分野にも積極的に展開していく予定です。エネルギーや鉄道など

木下精密工業株式会社 概要

本 社 〒462-0063
愛知県名古屋市区丸新町201番地
TEL 052-902-3331
FAX 052-901-2757

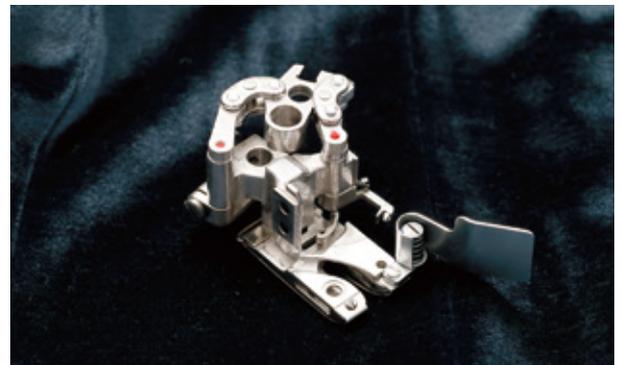
代 表 者 代表取締役会長 木下 治彦
代表取締役社長 木下 朋美

創 業 昭和23年(1948年)

従 業 員 70名

事業内容 工業用マシン部品、航空機部品などの製造

の新規領域の開拓に向けた設備投資を進めます。また従来から注力している航空機部品も今後需要の回復を見込んでいます。柔軟性をもって付加価値の高いモノづくりに取り組んでいきます」と木下社長。また同社は女性経営者の目線から働きやすい職場づくりを推進しています。令和元年には女性の働きやすさを評価する「あいち女性輝きカンパニー」に推薦されました。「働きやすさの観点からマツウラのマシニングセンタには非常に助けられています。マシン部品は非常に繊細で、細かい仕上げなど、女性の緻密さが活かせる場面は多いと考えます。にもかかわらず、労働環境へのイメージなどから製造業は全体的に女性が集まりにくい。作業者の負担を軽減しクリーンな環境整備を進めることで、優秀な女性の雇用を促進し、将来的には女性スタッフのみで運営する製造拠点を作るのが夢です」と木下社長は今後の展望を語ります。



▲同社のサンプルワーク

同社に設備されたマシニングセンタは赤色に統一されています。初期に導入した**MC-500V1**を踏襲する形で、近年設備したモデルも赤の特装色を採用してきました。しかし近く設備予定の最新モデル**MX-420 PC10**は標準色のブルーを採用。「赤もインパクトがあるが、ブルーのスッキリとしたイメージが良いです」と木下社長。女性目線での職場環境づくりは、製造業が抱える人手不足解消の糸口になるかもしれません。インタビューと工場風景の動画は、記載のQRコードを読み取り、ご視聴頂くことができます。また、当社ホームページでも公開中です。ぜひご覧ください。



製品紹介

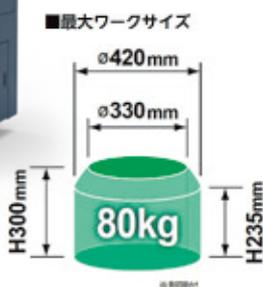
5軸制御立形マシニングセンタ **MX-420 PC10**

“ユーザーを訪ねて”にも登場した5軸制御立形マシニングセンタ**MX-420 PC10**。
最新機種となる同製品の開発時のこだわりや活用方法についてご紹介します。

**「安心」「簡単」「手軽に無人化」
夜間・休日も無人運転で生産効率アップ**



▲ **MX-420 PC10**



マルチパレットシステムを標準搭載

徹底した合理化設計で優れた
コストパフォーマンスを実現

主軸やワークへの接近性、
段取の容易さなど優れた作業性

大型オペレーションパネルで
見やすい・迷わない・間違わない



開発担当

技術本部 商品設計
マネージャー

飯塚 崇史

開発者インタビュー

MX-420 PC10の開発にあたっては**MX-330 PC10**を単純に大型化させるのではなく、あらゆる視点から設計の見直しが必要でした。

— 開発で苦労したエピソード

ワークサイズを拡張するとそれに伴いパレットチェンジャーも大型化します。コンパクトなマシンに仕上げるためには機械全体のレイアウトを改良する必要がありました。またワークサイズが大きくなることで、パレット交換時にワークがA軸と干渉するという問題が生じました。それを回避するために**MX-420 PC10**では、標準の**MX-330 PC10**とは異なるパレットの交換動作を採用しています。

— 開発者が提案する機械の活用法

MX-420 PC10の最大の特徴は、コンパクトなボディを持ちながらφ420のワークを加工でき、さらに10枚のパレットチェンジャーを搭載している点です。この機能とサイズ感はマツウラの現行ラインナップには無いモデルでした。現時点で複数のお客様から引き合いを頂いていることから、コンパクトなマシンでφ420サイズのワークを加工したいというニーズは根強かったのでしょう。従来カタログモデルではサイズの制約から導入が難しかったお客様にも、自信を持ってご提案できるマシンです。

— 開発当時のコンセプト

新製品の**MX-420 PC10**は、弊社のベストセラー機である**MX-330 PC10**の派生モデルです。元はお客様からご用命を頂いた特殊仕様として設計されたモデルでしたが、コンパクトなマシンでφ420のワークを加工できる需要は大きいと判断し、カタログモデルとしての開発に踏み切りました。

— **MX-330 PC10**との違いは？

一番の違いは10枚のパレットチェンジャーを搭載しつつ、より大型のワークの加工に対応したことです。**MX-330 PC10**と同じパレット数を持ち、高いコストパフォーマンスと優れた操作性を踏襲しながら、φ420のワークに対応したモデルが**MX-420 PC10**です。

— 開発時のこだわり

MX-330 PC10はコンパクトさにご好評を頂いたモデルです。**MX-420 PC10**についても同様にコンパクトさを重視しました。しかし、ベース機のワークサイズを単純に拡張し、かつ10枚のパレットを搭載すると、必然的にマシンのサイズは大きくなってしまいます。



本件に関するお問い合わせは、営業本部 営業サポートまでお願いします。
TEL: 0776-56-8105 FAX: 0776-56-8151

初めてでも安心・簡単な5軸機
MX Seriesのご紹介ページ

採用活動への 取り組み

本項ではマツウラで行っている採用活動への取組みの一部をご紹介します。コロナ禍の影響や活用媒体の多様化などにより採用活動の在り方が変わりつつある中、マツウラではリアルとオンラインを併せながら、学生の皆さんにモノづくりに携わる仕事のやりがいをお伝えして参ります。

2021年度 夏季インターンシップ

毎年恒例の技術職5Daysコースや1Day企業研究コースに加え、本年度は福井大学のよさこいサークル「よっしゃこい」のメンバーがコンテンツを企画した特別1Dayコースを開催しました。

技術職 5Daysインターンシップ：2021年8月23日～27日

マツウラのモノづくりに関心を寄せた理系学生13名が参加。5日間で様々な設計業務を体験しました。参加学生からは「実機や実際のソフトに触れる事ができ、貴重な体験となった」「モノづくりの楽しさや、設計のやりがいを知った」などの感想があがりました。



▲今年は13名の学生が参加



▲実機を用いた職業体験の様子

マツウラ×福大よっしゃこい 特別インターンシップ：2021年9月22日

福井大学のよさこいサークル「よっしゃこい」とマツウラのコラボにより実現。アイスブレイクを目的とした心理テスト、NASAが採用しているグループワーク、ユニークなテーマで説得力を競う演説王ゲームなど、学生目線の企画により、笑いが絶えない和やかなインターンシップとなりました。



▲よっしゃこいメンバーの挨拶



▲“説得力”を競う演説王ゲーム

動画コンテンツ「若手社員の仕事に密着してみた」

マツウラで働く姿をイメージしていただくため、若手社員たちの1日に密着しました。日々の仕事内容を動画で分かりやすくお伝えすると共に、就職先としてマツウラを選んだ理由を紐解きます。



■2年目 品質本部 カスタマーサポート 三ツ本さん篇

「様々な産業を支える仕事に憧れた」そんな思いでマツウラに入社を決めた三ツ本さん。現在は将来の海外駐在に向けて、国内で修理やメンテナンス業務のトレーニングを積んでいます。



■3年目 技術本部 開発研究 林さん篇

「苦手なことも1回やってみることが大事」林さんは画面設計のソフト開発を担当していますが、プログラミングが得意だったわけではないそうです。チャレンジ精神や尊敬する先輩について語ってくれました。

取締役 松浦 悠人

コラム



アフリカのことわざに「早く行きたければ一人で進め。遠くまで行きたければ皆で進め。」というものがあるそうですね。せっちな私にとって、他人を巻き込んだ組織的な改革というのは本当に難しい。正直に言えば、システム導入絡みの話で過去に大失敗を2回もしており、大いに反省中な訳です。私自身の突然の異動により敵前逃亡した案件もあり、その時のメンバーには本当に申し訳ないことをしました。

あらゆる改革は周りの意識をいかに他人事から自分事に変えられるかが重要なのだと思います。システムやデータベースに関して言えば、この意識を自分事にさせるのが非常に難儀。使う側からすれば、「色々理想はあるが自分から大きな改善に動くことはない。されど、他人に勝手に変えられるのは困る。」という側面が多少なりともあるというのが個人的な見解です。こんな面倒な

状況、誰かが先導せねばと思っていた当時の私はとりあえず結果至上主義で、「困っていますよね？これ使しましょう。」や「〇〇のために□□だけやってください。あとはこちらでやりますので。」というスタンスで、関わる人達の意識を他人の状況のままに事を進めた結果、それぞれの部署の担当者の理解や意識をこちらに十分に向けられなかったのでしょうか。事あるごとに、皆の後押しを受けられず急な方向転換を強いられ、出来上がったものは中途半端、導入効果なんて測りたくもないようなものばかりになってしまいました。

実は3度目の正直で、基幹システムの刷新にDXの案件として目下挑戦中なのですが、本当に頭を悩ませてくれます。それは解決する課題が今までの比ではないほど、難易度が高く、規模が大きいためです。もう「早く行きたければ一人で進め。」メソッドを強行できないほどで、逆に良かったかなと思っています。見なかったことにしたくても、結局10年後、20年後、振り返って一番後悔するのは自分でしかない。どうか今回はうまくいきますように。

海外ユーザーインタビュー

DX推進の一環として、マツウラグループではお客様の声を動画コンテンツにて積極的に作成しております。本誌では、配信中の動画からピックアップしてご紹介いたします。ぜひQRコードからアクセスいただき動画をご視聴ください。

Oracle Precision社 イギリス 我々もマツウラのビジネスの一旦を担い、共に成長したいです



Oracle Precision社は今年創立10周年を迎えた、これまで紹介してきたなかでは比較的若い珍しい会社です。

航空・防衛・再生エネルギー・石油&ガスなど様々な業界向けの受託精密加工を行っており、**MX-330**では医療業界向けのワークを加工しています。



今回のインタビューでは同社のShaun氏がマツウラと歩んだこれまでの3年を振り返ります。

- 「金曜日の午後に家に帰って日曜の朝見に来て問題なく稼働し続けてます。信頼性が高く、ビジネスに安定性をもたらしてくれました。」
- 「我々のような小さい企業にとって設備が1～2週間止まることは大惨事です。マツウラのサービスはどんな問題が起きても機械のダウンタイムを最小限に抑えてくれます。」
- 「自動化の推進は我々のビジネスの進むべき道です。我々もマツウラのビジネスの一旦を担い、共に成長したいですね。」



R&G Precision Engineering社 ビジネスに革命が起きました

イギリス



R&G Precision Engineering社は従業員数35名の小さな会社で、医療・モータースポーツ業界向けの受託加工を行っています。以前からマツウラの機械を複数台お持ちで、今年の4月には**MX-330 PC10**を1台導入し、現在は2台目の到着を待っております。

- 「機械が自動で動いてくれる、人がついていなくてもOK、1回の加工で狙った精度が出る、この3拍子がそろっているおかげで工場の効率が非常にいいです。」
- 「素材を10個、20個、30個、なんなら80個段取りしておけます。あとはボタンを押すだけで人が介入する必要はありません。」
- 「素材を段取りしてこの素晴らしい機械で加工すると、ビジネスに革命が起きました！」



Enzo氏のSNSを見てみると、ほとんどがマツウラに関する投稿ばかりで最近の投稿のなかには2台目の**MX-330 PC10**の到着を待ちわびているコメントもありました。**MX-330**では主に医療部品を加工しているようで、これからは2台の**MX-330**ともに医療業界に貢献されることでしょう。

新体制のご紹介

組立本部



組立本部長 市橋 佳巳

組立本部長の市橋佳巳です。年齢は54歳、平成元年に現在の武生工場（アイ・エム・エヌ株式会社）に入社し、33年間組立一筋で取組んでまいりました。今年発足した組立本部を担当する事になり、4月から本社勤務になりました。

組立本部は、第一組立（本社工場）、第二組立（武生工場）、製造技術という3つのグループがある本部で、統合物流本部より供給された部品に付加価値を加え製品へ仕上げる本部です。お客様への納入対応（操作説明含む）まで担当しており、生産工程では最終を受け持つ本部です。

アイ・エム・エヌ株式会社は2019年に本社と統合され現在の武生工場となりましたが、今年4月以降は組立本部の発足に伴い、さらに一体感を持った業務運営を実施しています。

我々が最も重視して取り組んでいるのが、若手の人材育成です。マツウラの将来を担う若手社員の意欲を高め、活力のある生産現場を実現します。活動の結果として、作業の平準化や工程内の歩留まりの低減に繋

げていき、生産性の向上を実現する事が私の実現すべき目標です。

人材育成活動として、教育を専門に支援する組織の立ち上げと、大形5軸マシニングセンタ（**MAM72-70V**）を用いた教育を実施しています。組立作業の中でも難易度の高い、5軸マシニングセンタの精度調整作業を、生産と切り離して行うことができ、若手社員が積極的に業務習得を実施する機会を増やすことが可能になります。



▲教育専用機**MAM72-70V**

また工作機械も日々進化しており、組立に必要なスキルも多様化しています。複雑化する調整作業を確実に、ばらつき無く実行できるように、最新デジタル機器を活用した精度測定やトルク管理、また手順の電子化や動画活用などを積極的に展開しています。

これからも組立本部はお客様から選ばれる機械造りを目指し、本部一丸となり取組んでまいります。マツウラにお越しの際は、最新のデジタル機器を用い、基本に忠実な機械造りを行っている組立工場を是非ご覧ください。

シングルorダブル

負うた子に教えられて浅瀬を渡る



社長 松浦 勝俊

ソーシャルネットワークやオンラインゲームのデジタル空間では、当人同士が現実空間での情報を持っている場合は別ですが、リアルな世界のヒエラルキーは存在しません。50代の成人男性が中学生に敬語を使っていることもあるでしょうし、ゲームの上手い

子供が操作の覚束ない社会人を叱り飛ばして社会人が謝っているなんてこともザラにあります。スキルに応じた公平さがあるのがデジタル世界ということでしょうか。

デジタル世界は、基本的に匿名の自由活動です。デジタル時代の黎明期には、物事が秩序を持って展開され快適な空間になると期待されていましたが、実際はエントロピー増大の法則の通り、物事は放っておくと乱雑に無秩序な方向に向かい、自発的に元に戻らず、格差の増大が進んでいきます。自由と秩序を同居させるには外から意図的に仕組みを加えなければいけないという図式が、デジタル社会にも当てはまる訳ですが、ソーシャルネットワークであれば知

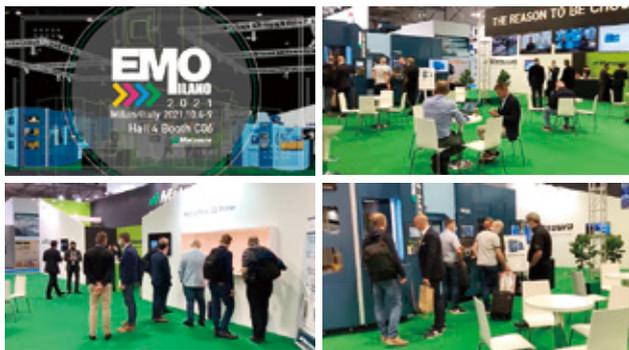
識量だったり発信力であったり、オンラインゲームであればゲームスキルであったり、その格差に応じたヒエラルキーが形成され、さらにその格差が不可逆的に広がっているように感じます。

このような格差を生み出すデジタル空間は、日常生活や政治・経済・科学の分野で加速度的に浸透しており、従来型のリアルな空間とデジタル空間の両方に適応していくことが、法人・個人両方に求められる時代に入りました。若い世代が直面するこれからのリアルとDXの両面での価値を上げるという競争環境は、一昔前とは大違いで複雑な作業が必要だと思えます。

工作機械の製造は、まだまだリアルな現場が主体であり価値の創造も現場に相当な量を依存しますが、今後DX技術の付加価値がどんどんその領域を増やしていくのは間違いありません。会社も喫緊の課題として鋭意取り組んでいますが、やはり全社レベルでのDXに対する理解・浸透が今後の肝と言えます。その為には次代を担う若手の育成が、事の成否を分けることとなります。とは言え、いやー、今の若い人達は本当に勉強が大変です。しっかり勉強してもらって、私にも色々教えて下さい。

お知らせ

1 「EMO MILANO 2021」にマツウラが出展



出展機



5軸制御立形マシニングセンタ
MX-330 PC10





5軸制御立形マシニングセンタ
MAM72-52V PC15





ハイブリッド金属3Dプリンタ
LUMEX Avance-25



▲QRコードから各製品ページをご覧ください

2015年以来6年ぶりにイタリアでの開催となった欧州国際工作機械見本市「EMO MILANO 2021」が2021年10月4日～9日の6日間で開催されました。総面積100,000平米を超える会場に世界34ヶ国から集まった約700社が計3,500台以上のマシンを展示しました。

マツウラでも「MX-330 PC10」「MAM72-52V PC15」「LUMEX Avance-25」の3台のマシンを展示し、人件費が高く残業などへの規制も厳しい欧州市場に対し自社のソリューションをPRしました。

2 2022年度入社予定 内定者研修会を実施



▲今年は10名の内定者が参加しました

2022年4月入社予定者10名の研修会を2021年7月24日～25日の2日間で実施しました。レゴブロックを用いて社内コミュニケーションやチームビルディングを行うワークショップ「LEGO SERIOUS PLAY メソッド」を通じ、同期となる学生同士の個性や、マツウラに入社して成し遂げたい将来のビジョンを共有しました。

2日目の研修終了後にはテクノポート福井スタジアムで行われた福井ユナイテッドFCの試合を観戦。試合観戦には2021年入社の新入社員も参加し、内定者との親睦を深めました。

3 福井ユナイテッドFC北信越フットボールリーグ優勝

マツウラがユニフォームスポンサーを務める福井ユナイテッドFCは、第47回北信越フットボールリーグにて13勝1分2敗の成績でリーグ優勝を飾りました。福井ユナイテッドFCとしては3年連続3回目、前身のサウルコス福井からは5年連続、9度目のリーグ制覇となります。北信越リーグ優勝に伴い、日本フットボールリーグ（JFL）昇格への道となる「全国地域サッカーチャンピオンズリーグ」に出場します。



▲リーグ優勝を飾った福井ユナイテッドFC

全国地域サッカーチャンピオンズリーグ 2021

一次ラウンド

日時 11月12日（金）～11月14日（日）

会場 朝日ガスエナジー東員スタジアム（三重県）

決勝ラウンド

日時 11月24日（水）～11月28日（日）

会場 味の素フィールド西が丘（東京都）



「チャンピオンズリーグ」
詳細

本号の書き終わり

* 日本工作機械工業会から9月度の受注状況が発表されました。9月度の工作機械受注額は1,446億円（前月比115%）と36カ月ぶりに1,400億円を超えました。内需は576億円（前月比129%）と2018年12月以来33ヶ月ぶりに550億円を超えました。年度半期末による増加傾向に加え、補助金採択分の受注が上乗せされ、大幅な増加

となりました。外需は870億円（前月比107%）と欧米を中心とした回復が続いています。

* 表紙にてご案内の通り、2021年8月末をもちまして東京フォーラムセンターを閉鎖いたしました。同センターは関東全域の営業所を統括するもので、情報の収集拠点や研究開発、会議場、講演会などの機能を持たせた多目的施設として1991年5月に完成しました。初代名誉所長にはソニー元常務

取締役で半導体の世界的な権威者であり理学博士の菊池誠氏が就任されました。完成当時は近郊のユーザー同士が同センターにて自由に歓談し、研究開発や体験発表ができる「はいてく寄席」も開催されました。東京フォーラムセンター閉鎖後は新たにスタートした関東営業所が同センターの役割を担っていく予定です。時代のニーズに即した企画を準備しておりますので、今後の関東営業所にどうぞご期待ください。